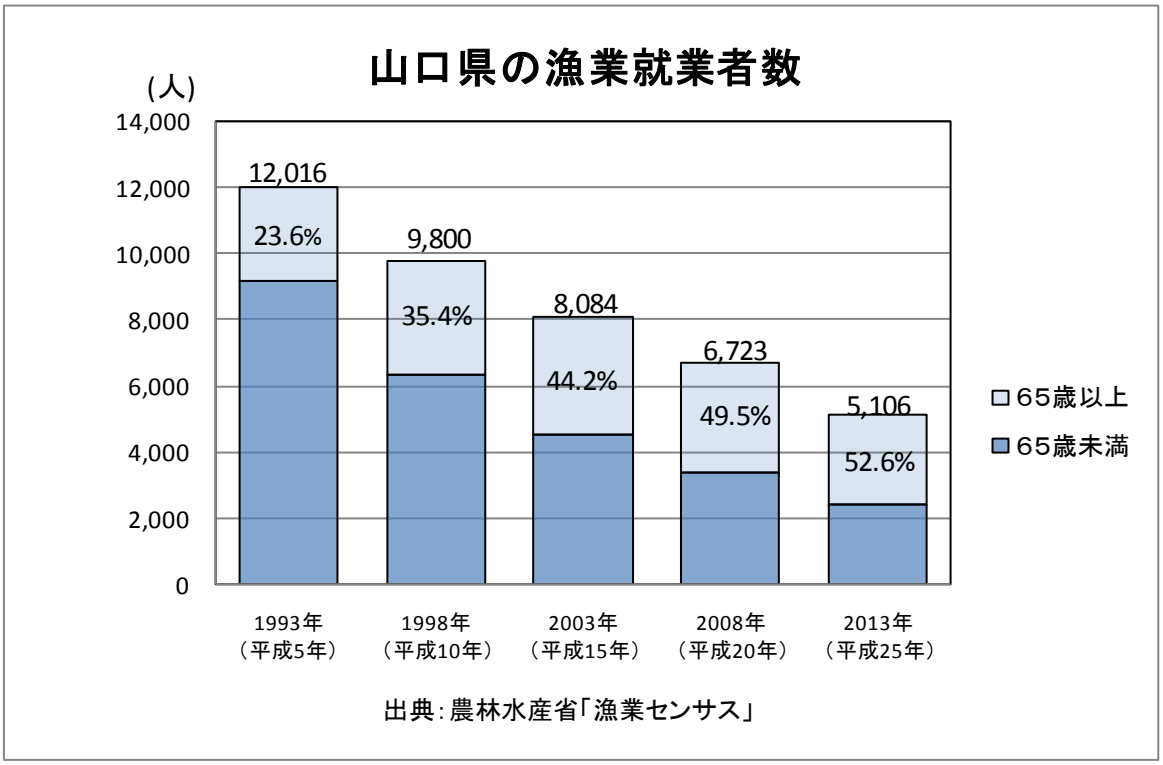
知っちょる？　統計やまぐち

38　やまぐちのおさかな事情　　２６年１０月１６日掲載

山口県は、三方が海に開け、古くから漁業が盛んに行われてきました。県の魚「ふく（ふぐ）」をはじめ、平成２４年漁業・養殖業生産統計で漁獲量全国１位の「あまだい類」、２位の「たい類」のほか、やまぐちブランドの「西京はも」、「やまぐちの瀬つきあじ」、「周防瀬戸の太刀魚」など、多種多様な水産物が水揚げされています。

その海の幸を届ける漁業の現状について昨年調査した「２０１３年漁業センサス」の結果が、この８月に公表されました。それによると、山口県の漁業経営体（水産物の販売を目的として、漁業を行った個人または事業所）の数は３６１８で全国７位、中国地方では、就業者とともに最多でした。

しかし、本県の漁業就業者は、平成５（１９９３）年からの２０年間で約６割も減少しています。あわせて高齢化も進んでおり、今回初めて６５歳以上が過半数を占めました。

また、新規就業者のあった経営体の数は、全国平均が１．３％であるのに対し０．６％しかありません。さらに全経営体に占める個人の割合は全国で４番目に高く、そのうち後継者がいる割合は、全国平均の１７％に対し９％という結果でした。漁業者の多くが親族から漁業経営を継承しているという調査結果もあり、漁業を新たに始める若い世代が少ないことから、高齢化した漁業者の廃業が急速に進むことが心配されます。

皆さんも、山口の旬のお魚を味わいながら、水産業のことを考えてみませんか。